

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02415

研究課題名(和文)江戸後期東北諸藩の学術における文理融合理念と文芸活動の関係を解明する新研究

研究課題名(英文)The new research in the fusion philosophy of the humanities and sciences on the literary activity of the scholarship of the Tohoku Domains in the late Edo

研究代表者

平林 香織 (HIRABAYASHI, KAORI)

創価大学・文学部・教授

研究者番号：50300132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代後期の幕藩体制における文理融合理念及び世界構造理念と藩主・藩士の文芸活動の関わりを解明することを目的として行った本研究であるが、文学と医学の連続性という観点や文学と本草学、歌学と農学の関係性などに視点を据えながら研究を展開した。藩主や藩士の活動が文学に限定されるのではなく、芸術学や地理学を隣接領域として広範な知の様相を看取しうることが明らかとなった。

以上の研究成果をふまえ、『大名文化圏の知の饗宴』(2020年3月、世音社)を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでは別々の学問として扱われていた文系諸学と理系諸学を融合的に捉え、また、文学の中でもジャンル別に研究されることが多かった学問全体を、大名文化という視点で融合的に捉えた。鶴岡市の財団法人致道博物館に伝来する第9代藩主酒井忠徳の文芸資料の目録を作成した。さらに、分散して保存され、一部未公開・未整理のものも含む佐竹北家の藩主の和歌・俳諧に関連する資料の目録作成及び一部資料の翻字を行い、貴重な文化資料に関する情報を発信した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was achieved. We have clarified the relationship between the literary fusion philosophy and the literary activity in the late Edo period system of the feudal lords and feudal lords. The research was developed with a focus on the relationship between herbalism, poetry and agriculture. It has become clear that the activities of the feudal lords and samurai were not limited to literature, but could perceive a wide range of knowledge aspects with arts and geography as adjacent areas.

We have published "The Feast of Knowledge of the Daimyo Cultural Area"(2020. Seonsha

研究分野：日本文学

キーワード：近世文学 和歌文学 俳諧文学 地誌 大名文化 東北諸藩 藩主 藩士

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世文学研究においては、和歌・俳諧・小説・演劇といったジャンルごとの個別研究、あるいは、堂上歌壇・蕉門俳諧・八文字屋本といった党派研究、西鶴・秋成・蝶夢・蕪村といった作者研究における資料の発掘・調査研究が進んでいる。また、各地の大名資料の分類・紹介も盛んにおこなわれるようになった。今後は、ジャンルや作者の個別的な研究を包括的な視野で統合する必要がある。一方、芭蕉や西鶴も諸藩の藩士と交遊して俳諧活動を行い、歴史意識・地域意識を新たにしながら諸国を旅して『奥の細道』に代表される紀行や『西鶴諸国はなし』などの諸国話集を成した。従来の個別的な文学研究は、大名文化圏を念頭においた新たな近世文学史の流れの中で再検討する必要がある。また、大名資料についても、文学・思想・地理・歴史・医学にわたる諸藩の知のアーカイブとして、俯瞰的に捉え直さなければならないと考えた。

また、研究の予備的成果として、各藩の文芸活動の内実や人的交流を明らかにしていた。和歌・俳諧活動はそれぞれ堂上家・俳諧宗匠との師弟関係に基づいて行われ、秘伝・詠法・添削指導といった二次元的な情報だけではなく、都市と地方の人や物資も行き来した。それは、諸藩の文芸活動だけではなく、知的営み全体を向上させ、諸藩の思想的背景や政治的営みと深く関係するものであった。また、松代藩の文芸活動と類似の営みが東北諸藩でも行われており、それはひとり藩主のみの個人的な営みに留まるものではなく、和歌や俳諧といったジャンルに限定されるものではないことも判明した。藩主・藩士・領民、地域・中央・日本全体、文学・社会・サイエンス、どの面でも包括的・立体的に考えるべきであるということが再確認された。

東北諸藩は、江戸時代後期、財政難・冷害・災害・国防の点から他藩以上に済生窮民・人材育成が急務であった。南部藩・庄内藩・秋田藩をモデルケースとして、各藩がどのような文理融合理念・世界構造理念のもとで、どのように文芸活動・人材育成活動を展開したのかを解明し、諸藩の知のアーカイブを近世後期の日本の知に敷衍することとした。

2. 研究の目的

江戸時代後期の幕藩体制における文理融合理念及び世界構造理念と藩主・藩士の文芸活動の関わりを解明するモデルケースとして盛岡藩・秋田藩・庄内藩を取り上げる。財政難の中、寛政の改革の政策誘導のもとで、東北諸藩は、独自の歴史意識と地域意識による済生救民・人材育成を行った。文学・国学・地理学・歴史学・漢学・洋学・医学を包括した文理融合理念と天の道・地の道・人の道を統合する世界構造理念を背景に、藩主・藩士は和歌・俳諧を詠み、藩史・地誌を作成し、殖産を行い、医療活動を実践した。国防意識から文武二道の奨励も行った。諸藩の和歌・俳諧作品及び秘伝書、軍記・随筆の伝承といった文芸活動が、個別的な領域を包括する実践哲学の表れであることを解明する。

3. 研究の方法

平成28年度については、盛岡藩南部家を中心に調査を行い、近世初期の文武学校から寛政年間の藩校明義堂設立に至る経緯と、幕末・維新期に私塾日新館が設立され、回生堂、日新館、作人館にいたるリベラルアーツに根差した医学教育史を跡づける。藩校資料・書籍目録及び和歌俳諧漢詩等文芸資料によって藩主・藩士・藩医の文理融合的知の形成を跡づける。もりおか歴史文化館・先人記念館・岩手医科大学付属図書館(館長佐藤洋一、和漢古書3000冊所蔵)の協力を得て、同大前産婦人科医・医学教育史研究家國本恵吉『岩手の醫學通史』1987. 日刊岩手工業新聞社の調査研究を再検証する。もりおか歴史文学館所蔵南部家文書の藩校関係書(『旧盛岡藩文武教育』『旧藩教育沿革史』『藩政中文教育調』『塾法大略』『学軌』3種)50点余りの医学書、藩医関連資料(『御医師遠近帳』『疱瘡御用書書留帳』)と岩手医科大学所蔵和漢古書(現在分類済みの3分の1の書目構成は下表のとおり)を照合する。平成26年度に岩手医科大学に寄贈された作人館創設者・奥医三浦自祐家旧蔵書についても研究対象として統合する。その結果、盛岡藩における文武二道と医学教育における文理融合理念の形成過程及びその内実が判明する。また、『盛岡藩家老席日記雑書』(正保2年~天保11年)の記事と突き合わせることで、藩校の変遷及び藩校における儒学・蘭学の受容と洋学の排除の歴史をたどることが可能である。また、岩手県立図書館及びもりおか先人記念館所蔵の医師八角高遠・三浦自祐・三田俊次郎関連資料によって、幕末・維新期の官民両サイドにおける文理融合理念に基づく、リベラルアーツ涵養を重視した全人的医療人育成、救世済民の地域医療の実態を明らかにする。

平成29年度は庄内藩酒井家を中心に調査を行う。酒井家伝来の堂上家からの書状(差出人: 烏丸光栄・光胤・光祖、日野資枝・資矩、冷泉為村・為泰、宮部義正、全約250通)・伝授書(約10冊)は、安永期(1772~)から文化年間(1804~)に及び、ほぼ年代順に整理することができる。そこから、第9代藩主酒井忠徳と堂上家との師弟関係の実態と、伝授内容の内実が明らかになる。そこにはとりもなおさず庄内藩及び庄内藩主の国造り・治世の思想の根本が投影されている。また、点取俳諧関連書が点帖・袋・句揚げ記録を網羅したかたちで約200冊伝来している。そこから江戸座宗匠との師弟関係や親族・藩士らと一座した俳諧興行の実態が明らかになる。一方、致道博物館・鶴岡市郷土資料館・光丘文庫に数多く伝来する酒井家関連資料である歴史書・地誌・絵図・随筆に表出する文理融合理念が、酒井忠徳周辺の文芸資料からわかる藩主およびその文芸サロンの文芸活動にどのように投影され、庄内藩の世界構造理念を形成しているかを解明する。酒井家文書解読は、前致道博物館副館長酒井忠治の長年にわたる研究実績がある。その功績を顕彰しつつ、その成果を大名文化圏・文理融合・世界構造理念形成といった視点で再検証する。

さらに、平成 29 年度にはこれまで行ってきた秋田藩佐竹北家の藩主・藩士の文芸活動についても総括を行う。平福記念美術館初代館長・角館町教育次長を歴任された鈴木實氏の『佐竹北家三代の俳諧』(2003.秋田文化出版)は、佐竹義躬の政治的動静と秋田藩における蘭学・蘭画受容史を見据えながら、義躬の文芸活動のフレームを解析した名著である。鈴木實氏は本書刊行後も精力的に佐竹北家に関する資料調査・収集を継続しておられる。これらを、仙北市石黒家に伝来する北家の勘定方でもあり義躬の俳友でもあった藩士鈴木直之関連資料(文学・地理学・歴史学・和算・漢籍・蘭学など多岐にわたる)と照合することによって、佐竹北家における藩主・藩士の文理融合理念と文芸活動の実態が明らかになる。義躬は佐竹本家とも政治的・思想的・文学的に深くかかわった人物であり、秋田県立図書館の『北家日記』の義躬関連記事を傍証としながら、佐竹北家の文理融合の知について検証する。

平成 30 年度には、以上の研究成果について共同討議を行いつつ、それぞれの分担に関して、論文をまとめ、『大名文化圏における知の饗宴』という書籍を刊行する。

4. 研究成果

3 で述べた研究方法によって 4 年間の研究は順調に推移し、ほぼ当初の目的を達成することができた。文学と医学の連続性という観点や文学と本草学、歌学と農学の関係性などに視点を据えながら研究を展開した。それぞれの藩主や藩士の活動が文学に限定されるのではなく、芸術学や地理学を隣接領域として広範な知の様相を看取しうることが明らかとなった。

盛岡藩における文理融合的な医学教育の水脈が、近世期の藩校、近世後期から明治期にかけての私塾を経て、医学専門学校から新制医科大学へと継承され、伝来する和漢古医書が、医学や医学教育を前近代・近代の垣根を越えて連続したものとして考えることの有効性を示唆していることを追究した。また、庄内藩においては、歌学を中心とした国学思想や歌作の実作が、伝統的な歌学・国学の系譜を踏まえたものであること、身分の上下を問わぬ広い階層に浸透していたことを解明した。中央と地方という地域的な違いや、堂上と地下という身分の違いによる文学的活動の差はなく、中央でも地方でも、藩主も藩士も、ひとしなみに和歌や漢詩、俳諧の素養があり、文芸活動における自己修養を怠らなかつたことが明らかとなった。

鶴岡市の財団法人致道博物館に伝来する第 9 代藩主酒井忠徳の文芸資料の目録を作成した。さらに、分散して保存され、一部未公開・未整理のものも含む佐竹北家の藩主の和歌・俳諧に関連する資料の目録作成及び一部資料の翻字を行い、貴重な文化資料に関する情報を発信した。酒田市光丘文庫に伝来する池田玄斎の『築山鈔』は、酒井忠徳治世下における庄内藩の文化的レベルの高さを立証する貴重な資料である。本書は池田玄斎が師事していた杉山廉女の言説を書き留めたものである。廉女の周辺には庄内藩の文人が多く参集し「杉山の会」という文化サロンを形成していたことが明らかとなった。また、廉女は堂上歌人とも交流があり、二条家や日野家の歌学にも通暁しており、一地方の歌学・国学水準が、堂上や中央のそれと変わらないものであることを検証した。

そして、6 年にわたり調査を続けてきた佐竹北家の藩主及び藩士を取り巻く文化活動についても考察を深め、秋田公文書館や秋田県立近代美術館等の関係資料を確認し、佐竹北家文芸書目録を作成した。

以上の研究成果をふまえ、『大名文化圏の知の饗宴』(2020 年 3 月、世音社)を出版した。その内容を明示するために、以下に目次を掲出する。

第一章 文理合一の 知			
江戸の梅毒治療物語	文理合一の水脈	平林 香織
医学は文学である	医学教育に文学を!	佐藤 洋一
五十嵐篤好の農学と国学		奥野美友紀
第二章 大名文化圏におけるさまざまな 知 の表象			
庄内藩士の環ネイチャーライティング境文学	『百華辨』の紹介と解説	...	伊藤 善隆
大名の遊び心に隠された 知	松代藩第六代藩主真田幸弘の場合	平林 香織
第三章 中央と地方を結ぶ 知			
江戸座俳諧と角館	佐竹北家、明和安永期の活動から	稲葉 有祐
名所絵本『東国名勝志』にみる東北意識	元禄地誌との関係を視座に	..	真島 望
大名家の系譜言説の形成過程とその背景	津軽氏の例を中心に	志立 正知
第四章 翻刻と資料目録			
【翻刻と考察】	池田玄斎著『築山鈔』(酒田市立光丘文庫蔵)	平林 香織 錦 仁
	杉山廉女の歌論と庄内藩の文芸的環境をめぐって		
【翻刻】	佐竹義邦俳諧資料	稲葉 有祐
	『四本がゝり』『いとすゝき』(秋田県公文書館蔵)		
	『そのふり』『老曾の森』(鈴木實氏蔵)		
【目録】	佐竹北家俳書	稲葉 有祐
	公益財団法人・致道博物館所蔵酒井忠徳関係文芸資料	平林 香織

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 真島望	4. 巻 1
2. 論文標題 新興都市江戸の事物起源事典 菊岡沾涼『本朝世事談綺』考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 尚古趣味の歴史	6. 最初と最後の頁 69-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 1
2. 論文標題 近世俳諧史と大社俳壇 手銭記念館所蔵資料から見えてくるもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業 平成三十一年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 58
2. 論文標題 「はるか 執心蔵見立評判記」 幕末期俳人の見立番付	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学国語国文	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 36
2. 論文標題 田部松声編『まつのはれ』 得々庵中哉四十賀記念集	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 159-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 57
2. 論文標題 『万家人名録』刊行前後 手銭有秀宛俳人書簡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 1
2. 論文標題 桃隣舎文辰著『〔池西言水四季独吟評釈〕』について 近世後期における元禄俳諧評釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 在外絵入り本 研究と目録	6. 最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 1
2. 論文標題 『たまひろひ』と『山城名勝風月集』、そして『都名所画譜』 絵俳書の板木再利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 在外絵入り本 研究と目録	6. 最初と最後の頁 17-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志立正知	4. 巻 1
2. 論文標題 東国の武士たちと軍記	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 軍記物語講座 1 武者の世が始まる	6. 最初と最後の頁 3-09
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平林香織	4. 巻 1
2. 論文標題 江戸時代梅毒専門医・船越敬祐によるナラティブ・メディスン-- 江戸時代梅毒専門医・船越敬祐によるナラティブ・メディスン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療倫理教育のためのG. グリーンのナラティブ解析研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平林香織、河原崇、今栄駿介、秋元成鎬	4. 巻 53
2. 論文標題 岩手医科大学附属図書館蔵手醫學文庫『絵本癩瘡軍談』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育年報	6. 最初と最後の頁 67 - 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 1
2. 論文標題 出雲俳諧史と大社俳壇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 出雲地域の学問・文芸の興隆と文化活動	6. 最初と最後の頁 142 - 157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 11
2. 論文標題 花叔三回忌追善集『夢路の葉桜』 手銭記念館所蔵俳諧資料(一一)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『山陰研究』島根大学法文学部山陰研究センター	6. 最初と最後の頁 19 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉有祐	4. 巻 8
2. 論文標題 江戸座俳諧と角館 - 佐竹北家、明和安永期の活動から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 73 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明、玉城司、伊藤善隆、服部直子、越後敬子、稲葉有祐	4. 巻 94
2. 論文標題 『四時観』 「名月や」歌仙分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 71 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真島望	4. 巻 87 - 4
2. 論文標題 再生する地誌 『東国名勝志』とその依拠資料をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 38 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真島望	4. 巻 8
2. 論文標題 全角画「武州雑司谷八境」をめぐる諸問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 90 - 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平林香織	4. 巻 52
2. 論文標題 『好色一代男』の海洋意識 旅する世之介	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育研究年報	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平林香織	4. 巻 50
2. 論文標題 『好色一代男』の地名意識	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育年報	6. 最初と最後の頁 87 - 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 28
2. 論文標題 雲裡坊著『答問書』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 湘北紀要	6. 最初と最後の頁 45 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件(うち招待講演 5件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 平林香織
2. 発表標題 連句の風景—大名の点取俳諧と連句の教室
3. 学会等名 第6回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤善隆
2. 発表標題 近世俳諧史と大社俳壇 手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの
3. 学会等名 島根大学・手錢記念館包括連携協定締結記念3プロジェクト合同成果報告シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤善隆
2. 発表標題 『万家人名録』前後 手錢記念館所蔵資料から
3. 学会等名 立正大学人文科学研究所第2回定例発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲葉有祐
2. 発表標題 興と俳諧 - 「句兄弟」の思想的背景と研究史上の問題をめぐって -
3. 学会等名 俳文学会東京例会7月例会・シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲葉有祐
2. 発表標題 異域 としての遊廓 元禄・享保期の江戸俳諧を視座に
3. 学会等名 説話文学会9月例会・シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野美友紀
2. 発表標題 五十嵐篤好の国学
3. 学会等名 北陸古典研究会2019年度上半期研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲葉有祐
2. 発表標題 (講演)赤穂浪士と江戸の俳人たち
3. 学会等名 俳文学会東京例会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲葉有祐
2. 発表標題 前句付・点取と批評
3. 学会等名 早生橙学国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真島望
2. 発表標題 享保江戸座俳諧と新名所 菊岡沾涼の活動を例として
3. 学会等名 俳文学会東京例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真島望
2. 発表標題 「名所絵本『東国名勝志』と元禄地誌『一目玉鉾』・『東海道分間絵図』の利用をめぐって」
3. 学会等名 西鶴研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真島望
2. 発表標題 菊岡沾涼著『本朝世事談綺』考 享保期江戸の風俗考証
3. 学会等名 法政大学江戸東京研究センターシンポジウム「追憶のなかの江戸」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平林香織
2. 発表標題 西鶴の地名意識
3. 学会等名 日本文芸研究会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 志立正知
2. 発表標題 北奥羽諸大名の系譜言説の形成
3. 学会等名 中世戦記研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志立正知
2. 発表標題 家伝 という神話 津軽藩系譜言説形成の背景を中心に
3. 学会等名 「歴史の文体」研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤善隆
2. 発表標題 俳諧史上の其角の位置
3. 学会等名 江東区芭蕉記念館冬季文学講習会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 平林香織編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世音社	5. 総ページ数 482
3. 書名 大名文化圏における知の饗宴	

1. 著者名 伊藤善隆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古典ライブラリー	5. 総ページ数 582
3. 書名 初期林家林門の文学	

1. 著者名 伊藤善隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 立正大学図書館	5. 総ページ数 88
3. 書名 『立正大学古書資料館蔵 奈良絵本『大織冠』上巻 影印と翻刻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神作 研一 (Knasku Kenichi) (30267893)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	伊藤 善隆 (Ito Yoshitaka) (30287940)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	
研究分担者	志立 正知 (Shidachi Masatomo) (70248722)	秋田大学・本部・理事 (11401)	
研究協力者	稲葉 有祐 (Inaba Yusuke)		
研究協力者	真島 望 (Mashima Noxomu)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 洋一 (Sato Youichi)		
研究協力者	奥野 美友紀 (Okuno Miyuki)		